

厚沢部町 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

GIGA スクール構想のもとで整備された 1 人 1 台端末や高速通信ネットワークを活用し、すべての児童生徒の可能性を最大限に引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指す。

本町では、iPad の直感的操作性と Windows 端末の汎用性を活かしつつ、教科本来の「見方・考え方」を育む探究的な学びを ICT と融合させ、子どもたちが主体的に学びに向かう力を育成してきた。GIGA 第 2 期からは Chrome OS を使って、さらに一層、探究的な学びを ICT と融合させた学びを加速させる。また、デジタル・シチズンシップを重視し、端末を正しく使いこなす力も育てる。

2. GIGA 第 1 期の総括

- (1) 小学校低学年では iPad、高学年から中学生は Windows 端末を導入。iPad は直感的操作が可能だが、アプリ依存やタイピングの難しさが課題。Windows 端末は動作の遅さ、ネット接続不良、破損率の高さが問題。
- (2) 端末の持ち帰り開始により破損が増加。利用指導の不徹底や修理費の不足が顕在化。
- (3) ネットワーク速度は端末単体では規定値に達するが、同時接続時に帯域・セッション数が不足。グラウンドや校外での通信困難も課題。
- (4) 校務支援システム（C4th）導入により校務 DX が進展し、働き方改革に寄与。
- (5) 教員間の ICT 活用スキルに格差。特定アプリへの依存が継続し、Google 基本サービスやベストミックス指導の普及には至っていない。
- (6) 不登校・病欠児童生徒への双方向授業は未整備。特に小学校では導入実績がない。
- (7) 教育委員会として環境整備は完了。今後はユーザー側（教員・児童生徒）の育成が急務。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策（GIGA 第 2 期）

(1) 1 人 1 台端末の積極的活用

- ア ICT 支援員による伴走支援を強化。
- イ 毎年 ICT 研修を実施し、研修受講率 100%を目指す。
- ウ 端末の破損・不具合対応のための予備機整備と、日常的な活用によるメンテナンス体制を構築。
- エ 持ち帰り利用に向けた利用指導マニュアルを整備する。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

- ア 授業支援ソフトや AI ドリルの活用に加え、Google Workspace Classroom の本格活用を進める。
 - イ 調べ学習、意見表出、相互交流の 3 観点での端末活用を週 3 回以上実施することを目標とする。
 - ウ 探究型学習やプロジェクト学習におけるドキュメント・スライド共同編集を積極的に導入。
- (3) 学びの保障
- ア 不登校・病欠児童生徒向けに、双方向型オンライン授業を全校で実施可能な体制を整備。
 - イ 心の健康観察アプリの活用により、家庭とのつながりや教育相談体制を充実。
 - ウ 特別支援教育や外国籍児童への翻訳・音声読み上げ機能の利活用を進める。